

私の益子焼き

m. t

益子焼きとは何？

益子の陶芸祭りにおよそ30年余りかよっている
但し たいして焼き物には興味は無く、唯のお祭り
好きだったが、はじめて行った時に買った作家の作
品が気に入り、ごく最近まで買い続けている。ここ
2,3年は当初の作家ではなく自分の持っている益
子焼のイメージ?の物を買っている。益子の陶芸祭
りに行くと全国の陶磁器がそろっている感じがし、
益子焼とは何なのか解らず自分なりに整理をした。

□ 歴史

益子の地には古く縄文時代の焼き物の破片が出
土する、また、5世紀の半ばの古墳時代の須恵器も
出土するがその後、焼き物が焼かれたという文献は
見当たらない

再び益子で陶業が始まるのは1853年(陶業地
としての歴史は若い)黒羽藩の庇護を受け再開する
がすぐに明治維新になり民窯として日常雑器 主
に土瓶・土鍋を昭和の初期まで焼き続けた 故に他
の名のある陶業地の様な技術を誇る名工も茶道の
影響もなく、素朴な自然な物であった そして、大
正の末に浜田庄司氏がこの地に居を定め民芸活動
を行い、その新しい生活様式の提案により益子焼き
が世の中に認められる様に成った。(経営的には戦
後、横川の釜飯の容器を受注する事により安定し
た)

その他、益子焼きの発展に寄与した組織(文献を
参考にした私的判断)として、

- ・ 益子陶器同業組合・・・観光地としての整備
・ 広報活動
- ・ 陶器伝習所(現県立窯業指導所)・・・研修生の
指導
- ・ (株)つかもと・・・一時期の地元窯業の経営
と若手育成



益子参考館



益子陶芸まつり

□ 焼き物の基礎知識

陶磁器には大きく三つに分類されます

- | | | | | |
|---|-----|-------|------------|-------|
| 1 | 陶器 | 粘土 | 1000~1200度 | 釉薬を使用 |
| 2 | せつ器 | 粘土 | 1200~1300度 | 釉薬未使用 |
| 3 | 磁器 | 陶石・長石 | 1300~1400度 | 釉薬を使用 |

上記以外に土器・かわら等がある

産地を陶磁器の分類で分けると

- | | | |
|---|-----|------------------|
| 1 | 陶器 | 美濃・瀬戸・唐津・萩・笠間・益子 |
| 2 | せつ器 | 信楽・備前・常滑 |
| 3 | 磁器 | 有田・鍋島・京・九谷 |
- * 各産地の代表的な焼き物を表してます
* 産地により陶器・せつ器・磁器が混在しています

2号—2

□ 私的判断での益子焼の作風

先に記した様に益子の陶芸まつりをみると益子焼はどんな物か素人には解らない、私が当初から好きな作家はまるで浜田庄司的では無かった

唯 益子で作っていて、そこで売っていたので益子焼きだと思って買っただけである 浜田庄司氏のは高すぎて手がでなかった事は確かであるがあまり深くは考えていなかった 今回この企画のおかげで改めて「益子焼き」とは？自分なりに検証してみた そのおかげで今年の益子行きが楽しみになってきた

- 1 **古益子** 明治から大正・昭和の初期まで作風で土瓶等に多く、山水が軽やかなタッチで描かれている。今は一部でしか作られていない
- 2 **民芸の流れを汲む作家** (敬称略)
浜田庄司・島岡達三・佐久間藤太郎・田村一郎・村田元等
注 浜田氏と島岡氏を比べると作風はかなり違うと思われるが根本は同じ？
- 3 **窯業企業・指導所にて修行した作家** (敬称略)
加守田章二？・糸井哲夫・瀬戸浩・坂田陣内
- 4 **その他** 私が始めて収集した北村氏も？

参考に調べた本にも**益子近辺で作られる物を益子焼きという？つまり 作風にて益子焼きとは断定できない**

民芸から現代工芸に流れは変わっている

私的にもこの意見に賛成だが、今年も佐久間藤太郎氏の作風の作家で若い人の作品を買おう思っている

□ 民芸とは

民衆の民と工芸の芸をとり名づけた(実用品・普及品の美)・・・民衆的工芸(用の美)

* 上記の民芸作家の作品の多くは今、高価になり実用品とはいいがたい？

以上 勝手な事を書きました



使用している皿 松下忠生氏作



使用している皿 早川嘉則氏作



使用している皿 北村隆彦氏作

参考にした文献

日本の陶磁器 7 益子・伝統工芸品シリーズ益子焼き・日本の焼き物益子笠間・岩波新書民芸四十年・文化財探訪クラブ10陶磁器の世界・下野新聞社のとの陶芸 益子・その他